

1 研究の概要

(1) 研究テーマ

佐賀県小・中学校学習状況調査から見える課題の解決に向けた小学校国語科の授業改善

(2) 学習状況調査から見える小学校国語科の課題

今までの佐賀県学習状況調査から見える小学校国語科の課題は、以下のようになっています。

- ・目的や意図に応じて、条件に合わせて書くこと
- ・目的や意図に応じて、複数の内容を関係付けながら、自分の考えを書くこと
- ・目的や相手、表現様式や場面に具体的にに応じること

(3) 研究の目標

佐賀県小・中学校学習状況調査から見える小学校国語科の課題を解決するために、解答を分析した結果を基にした授業改善策を探ると同時に、単元で力をつける小学校国語科の授業改善の在り方を探る。

(4) 研究目標について

21 世紀型能力の提案がなされ、学力観の転換期を迎えています。国語科は学力の中枢を支える教科として、大きな役割と責任を担っていることはいまでもありません。

本研究では、学習状況調査の解答をより詳細に分析することで、児童がどのように思考し、どこにつまずき、何に困っているのかを解明しようと考えました。その結果を、私たちの毎日の授業改善に生かしていったなら、教室は、未来に向かって生きる児童に「生涯学び続けられる学力」を付ける学びの場となることでしょうか。また、児童の実態を知れば知るほど、「単元で学び、単元で力をつける」意義を深く考えさせられました。学びの目的や方法が明確に分かる学習課題、ゴールの姿が見える学習計画、児童が学びの必然性を感じ、楽しく学習することのできる言語活動、学習者自身がついた力を実感できる振り返り。学習者である児童が主体的な思考や判断を伴う学びを実現するために教師の位置付けた言語活動の中で、教師の期待をはるかに上回る学びをする児童の姿が見られたら、こんなに素晴らしいことはないのではないのでしょうか。「学び浸っている姿」こそ、私たちが求めたい児童の姿なのです。毎日の教室の中で、学び浸っている児童の姿を求めて、授業改善の提案をしたいと考えます。

(5) 本研究のプロセス

本研究は、以下のプロセスで進めていきます。

1 佐賀県学習状況調査の Web 報告書から、今までの小学校国語科教育の課題を洗い出す



2 平成 27 年度佐賀県学習状況調査 [4 月調査] の解答を分析し、誤答傾向を考察する

全国学力・学習状況調査で用いられる解答類型をモデルに、[4 月調査] の解答類型を作成し、

佐賀県学習状況調査の Web 報告書において、県正答率が「おおむね達成」の基準に到達していない問題、活用問題、無解答率の高い問題を中心に、解答を分析し、誤答傾向を考察しました。

